

県南部でイネカメムシの越冬を確認しました

昨年引き続き水稲における被害が懸念されます

不稔・斑点米を防止するため適期防除に努めましょう！

イネカメムシは、昨年、県南部を中心に水稲で大きな被害を生じさせました。本種は従来の斑点米カメムシ類と異なり、**稲の出穂期頃の加害で不稔を、乳熟期頃の加害で斑点米を生じさせる**被害の大きな害虫です。

今後の水稲での発生を予測するため、1月下旬～3月中旬に、県内全域（25市町、全98地点）で越冬状況調査を実施しました。その結果、県南部の7市町でイネカメムシの越冬を確認しました（図1：■色の市町、写真1、2）。7市町では、本種は30地点中22地点（73%）と高頻度で確認されました。

イネカメムシの越冬が確認された地域では、今後、水稲に被害が発生することが懸念されます。被害が生じないように、必ず出穂期頃と、その7～10日後（乳熟期頃）に液剤で防除しましょう。また、本種の越冬が確認されなかった地域（図1：□色及び○色の市町）においても、発生が懸念されるため、定期的にほ場を確認し、早期発見、適期防除に努めましょう。

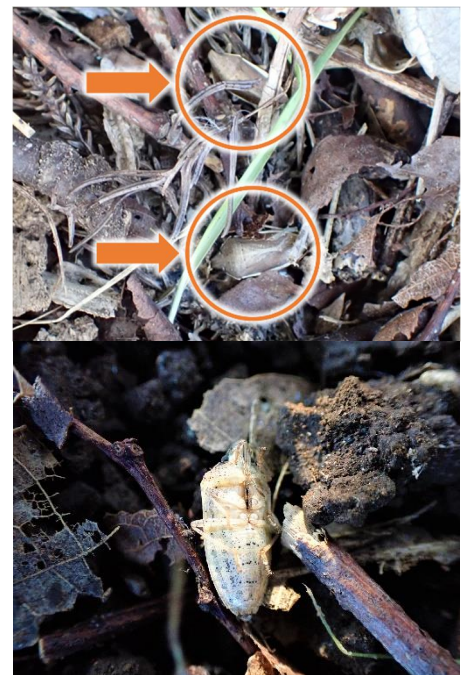
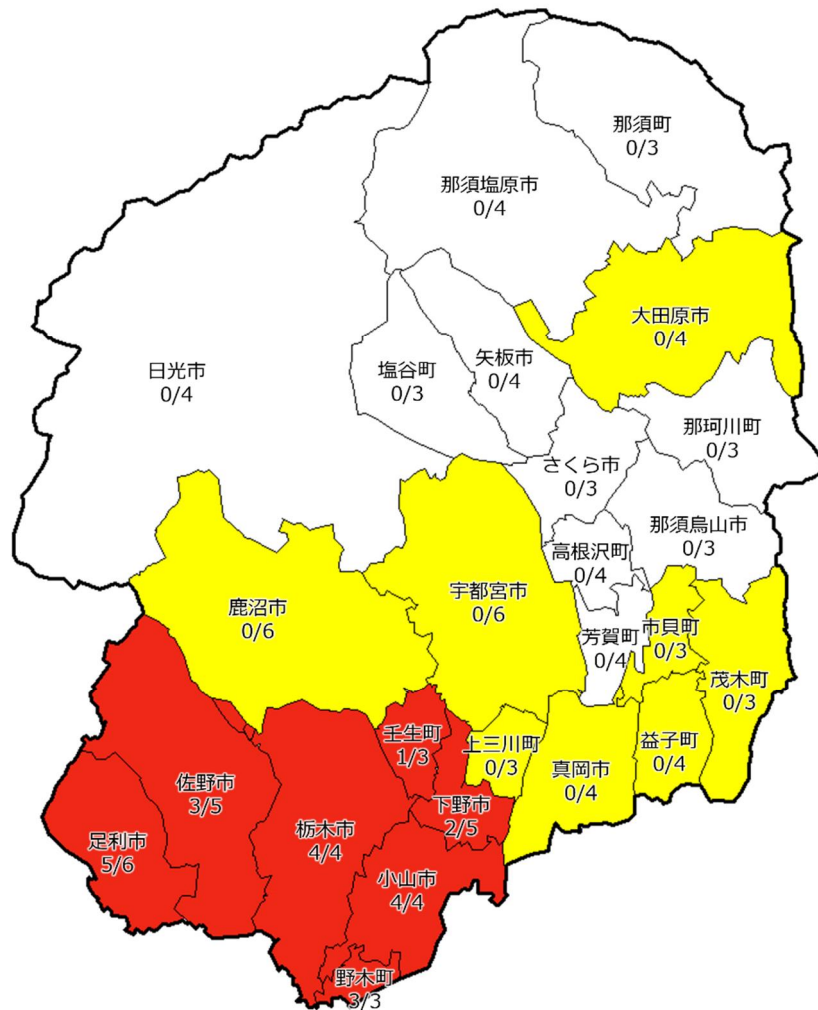


写真1 落葉下の越冬成虫
 （上：背面、下：腹面）



写真2 越冬確認地点の様子

図1 イネカメムシの越冬確認状況

※ 図中の数字は、越冬確認地点数/調査地点数

■：越冬が確認された市町

□：越冬は確認されなかったが、前年の水稲ほ場等で発生を確認した市町

【防除対策－薬剤防除（出穂期以降）－】

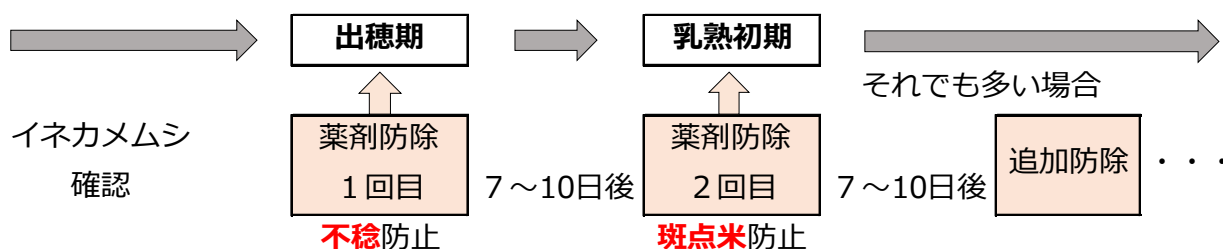


図2 イネカメムシの適期防除のイメージ

- 1 **不稔防止対策として出穂期頃と、斑点米防止対策として出穂期の7～10日後（乳熟初期頃）**に液剤を散布して防除する（図2、表1）。
 その後も本種を含めた斑点米カメムシ類がほ場内で確認された場合は、斑点米防止対策として、7～10日間隔で1～2回**追加防除**する。
 ※ イネカメムシの越冬成虫は水稻の出穂期頃に盛んに本田に侵入し、穂を加害して不稔を生じさせる。さらに乳熟期頃、ほ場内で発生した本種の幼虫や、本種以外の斑点米カメムシ類が穂を加害して斑点米を生じさせる。
 ※ カスミカメ類等の小型のカメムシ類には粒剤や豆粒剤の防除効果があるが、イネカメムシ等の大型のカメムシ類は粉剤や液剤で防除する（直接薬剤がかからないと薬剤の効果が十分に発揮されないため）。
- 2 **各地域の防除組織と連携した地域一斉防除**、ドローンによる薬剤散布等により適期防除を実施する。また、発生予察情報を参考に早めに防除の準備を行う。

表1 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和7（2025）年3月12日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	IRAC コード
スミチオン 乳剤	1000倍	収穫21日 前まで	2回以内	MEP	有機リン系	1B
キラップ フロアブル	1000～ 2000倍	収穫14日 前まで	2回以内	エチプロール	フェニル ピラゾール	2B
トレボン EW	1000倍	収穫14日 前まで	3回以内	エトフェン プロックス	ピレス ロイド	3A
スタークル 液剤10	1000倍	収穫7日 前まで	3回以内	ジノテフラン	ネオニコチ ノイド	4A
エクシード フロアブル	2000倍	収穫7日 前まで	3回以内	スルホキサ フロル	スルホキシ イミン	4C

注1：IRACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

注2：斑点米カメムシ類の薬剤防除は、水田周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、地域の養蜂家へ薬剤防除日を事前に周知する等の積極的な対応を行う。

詳細は、農業総合研究センター（Tel 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（旧ツイッター）（@tochigi_nousei）」、栃木県農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/>）でもご覧いただけます。

カメムシ防除作戦HP（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html>）もご覧ください。



農業総合研究センターHP



カメムシ防除作戦HP